

日時：平成22年8月22日（日）9時～17時
場所：佐土原総合文化センター、宮崎海岸現地

第9回宮崎海岸市民談義所 概要

【目的】

今後の侵食対策に関する議論を進めるため、

- ①市民と専門家、行政関係者が一緒に海岸を歩き、現地・周辺状況を把握すること。
- ②現在までの技術的な検討内容（侵食のメカニズムや対策の方向性）について専門家から説明を受け、三者で意見交換を行うこと。

【参加者】 約90名

- 専門家 4名
佐藤 慎司 東京大学工学系研究科社会基盤学専攻 教授 ※委員長
村上 啓介 宮崎大学工学部土木環境工学科 准教授 ※技術分科会長
西 隆一郎 鹿児島大学水産学部 教授
諏訪 義雄 国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部海岸研究室長
- 進行（市民連携コーディネーター）
吉武 哲信 宮崎大学工学部土木環境工学科 准教授
- 一般市民 36名
- 行政関係者 22名
宮崎県（河川課、港湾課、自然環境課、漁港漁場整備課、農村整備課、
宮崎土木事務所、中部港湾事務所、中部農林振興局）
宮崎市土木課
国土交通省 宮崎港湾・空港整備事務所
- 関係コンサルタント 17名
- 九州地方整備局河川部 3名
- 宮崎河川国道事務所 9名

【内容】

9:00～13:15 現地視察

- ① 一ツ瀬川左岸
- ② 石崎浜
- ③ フェニックス自然動物園裏
- ④ 一ツ葉有料道路PA

現地において、視察箇所毎の特徴（砂浜の状況[侵食・堆積]、自然環境、利用、背後地、周辺施設、養浜履歴、被災履歴 等）について参加市民や行政より説明した。

◆説明者：地元住民、漁業関係者、サーファー、宮崎河川国道事務所、宮崎港湾・空港整備事務所、宮崎県（河川課、港湾課、漁港漁場整備課）

14:00～17:00 室内談義

宮崎大学工学部の村上准教授から、「宮崎海岸の侵食対策で専門家が考える重要なポイント」（※）について説明を受け、その後、市民と専門家、行政関係者の意見交換を行った。

(※) 村上准教授の説明内容 [別添1参照]

- 現地視察のふりかえり（各視察箇所の特徴など）
- 宮崎海岸における侵食堆積メカニズム
- 宮崎海岸における流砂系も含めた対策とその課題
- 宮崎海岸における対策（中長期的な取り組みと緊急的な取り組み）

【市民と専門家の意見交換の概要】

○侵食のメカニズム

村上先生により宮崎海岸の侵食メカニズムについて説明があり、市民と専門家で意見交換を行った。（別添1参照）

○宮崎海岸侵食対策に求められる機能

佐藤先生から、以下の視点が示された。

基本方針

- ①北からの砂供給を増やす
- ②南への流出量を減らす
- ③急激な侵食を防ぐ

基本方針検討にあたっての観点

- ア. 機能（副作用も考える）
- イ. 耐久性
- ウ. コスト

※場所によって方法を考える

○対策工法

中長期的な対応（河川流域からの総合土砂対策）と短期的・緊急的な対応を区分したうえで、まずは短期的・緊急的な対策を検討し実施していくことを説明。

国内外の侵食対策の事例や、一般的な対策工法の持つ機能について、各専門家より説明した。また技術分科会および委員会で、宮崎海岸における具体的な対策（緊急的な取り組み）の検討に入ることを参加者で共有した。

※なお意見交換の前に[別添2]の資料により技術検討の流れを事務局より示した。

○その他

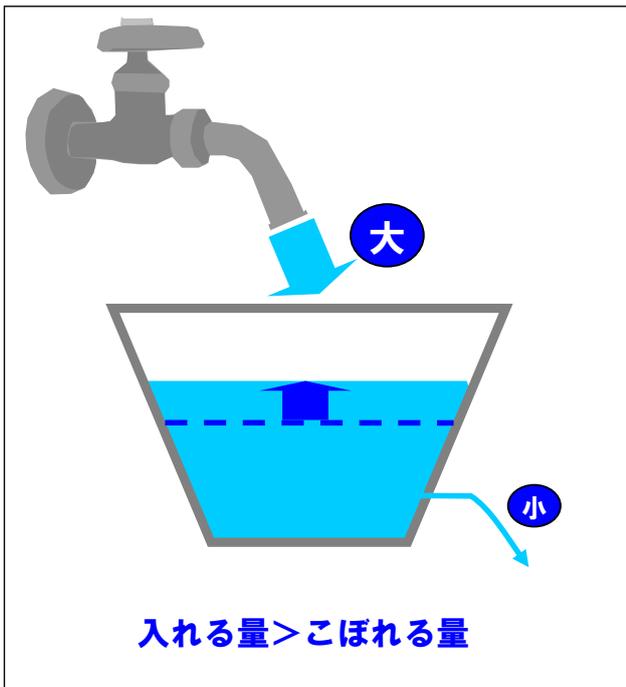
一般市民として参加されていた「宮崎県中部流砂系検討委員会」委員長の宮崎大学工学部杉尾哲名誉教授より、中部流砂系の取り組みについて紹介があった。

宮崎大学 村上准教授

説明資料

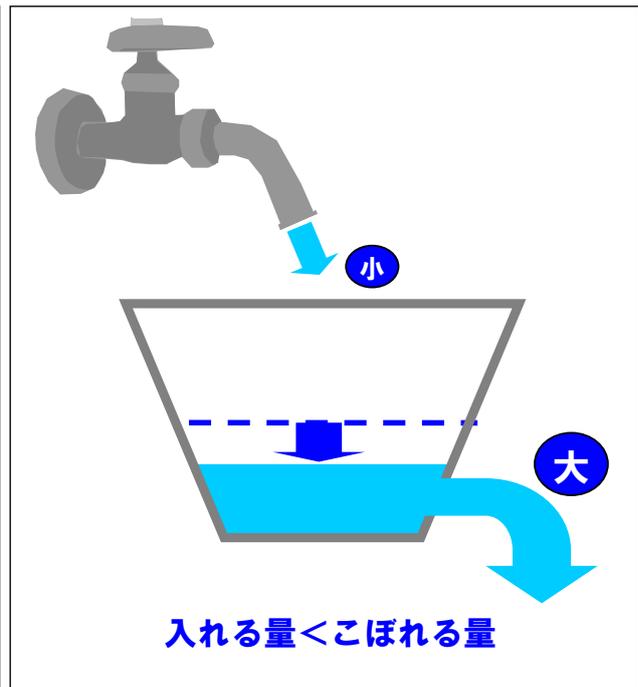
砂浜の侵食・堆積のメカニズム ①

2



↓

バケツの水かさは増える



↓

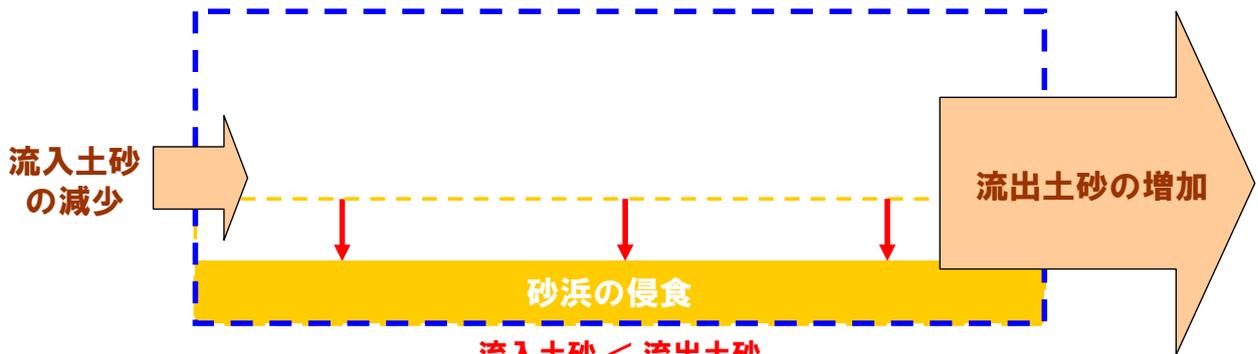
バケツの水かさは減る

安定している砂浜



流出土砂 = 流入土砂

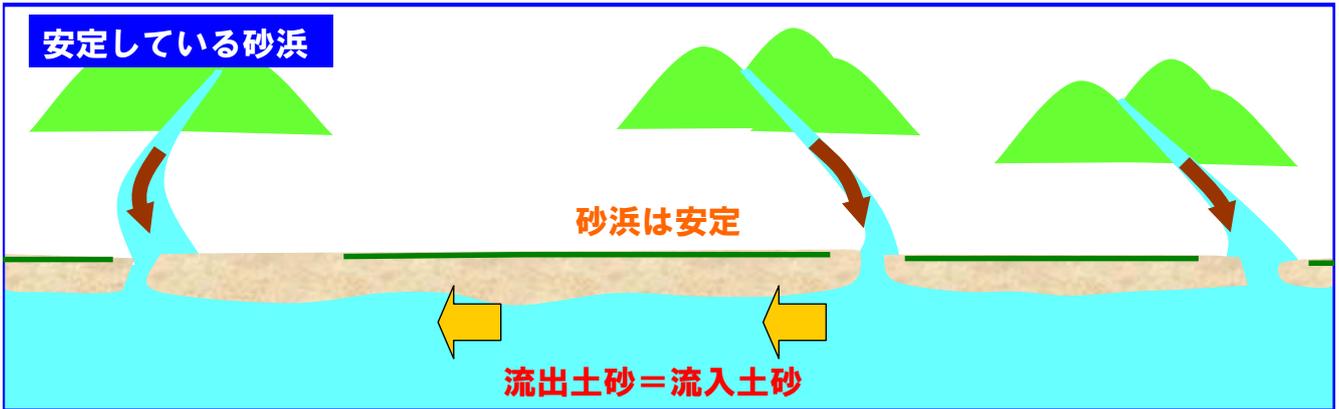
侵食が進行する砂浜



流入土砂 < 流出土砂

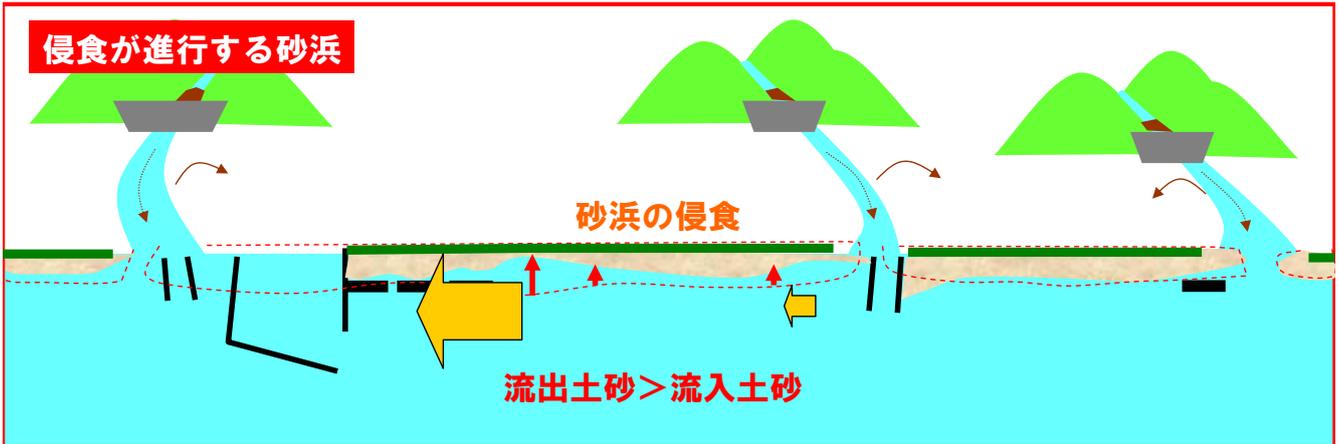
宮崎海岸における侵食メカニズム

安定している砂浜



流出土砂 = 流入土砂

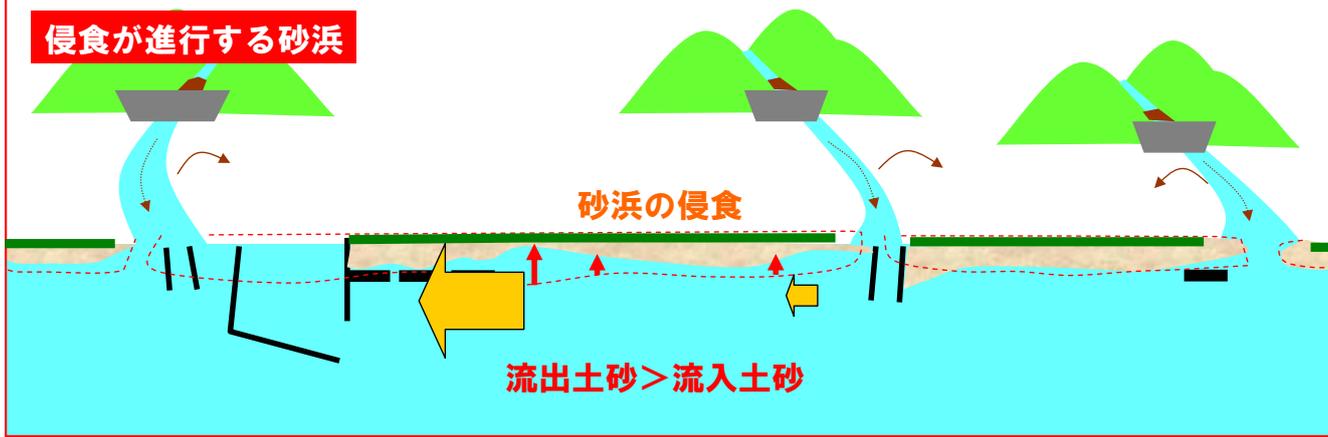
侵食が進行する砂浜



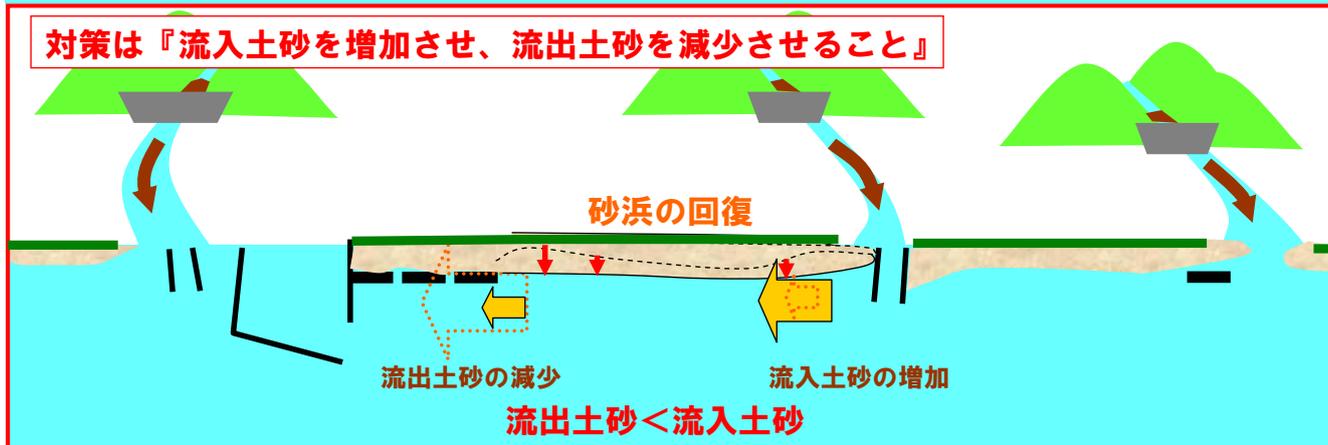
流出土砂 > 流入土砂

宮崎海岸における流砂系も含めた対策

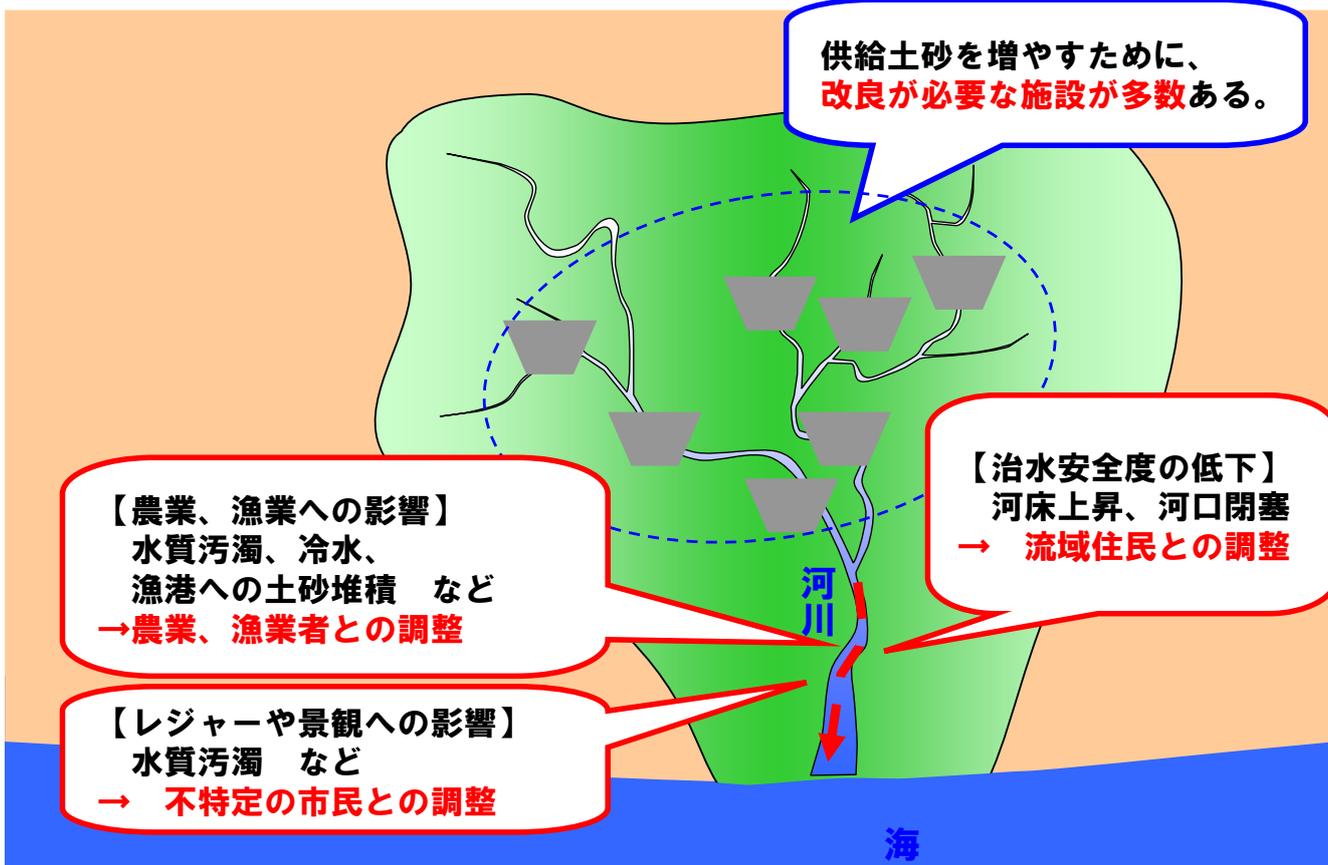
侵食が進行する砂浜



対策は『流入土砂を増加させ、流出土砂を減少させること』

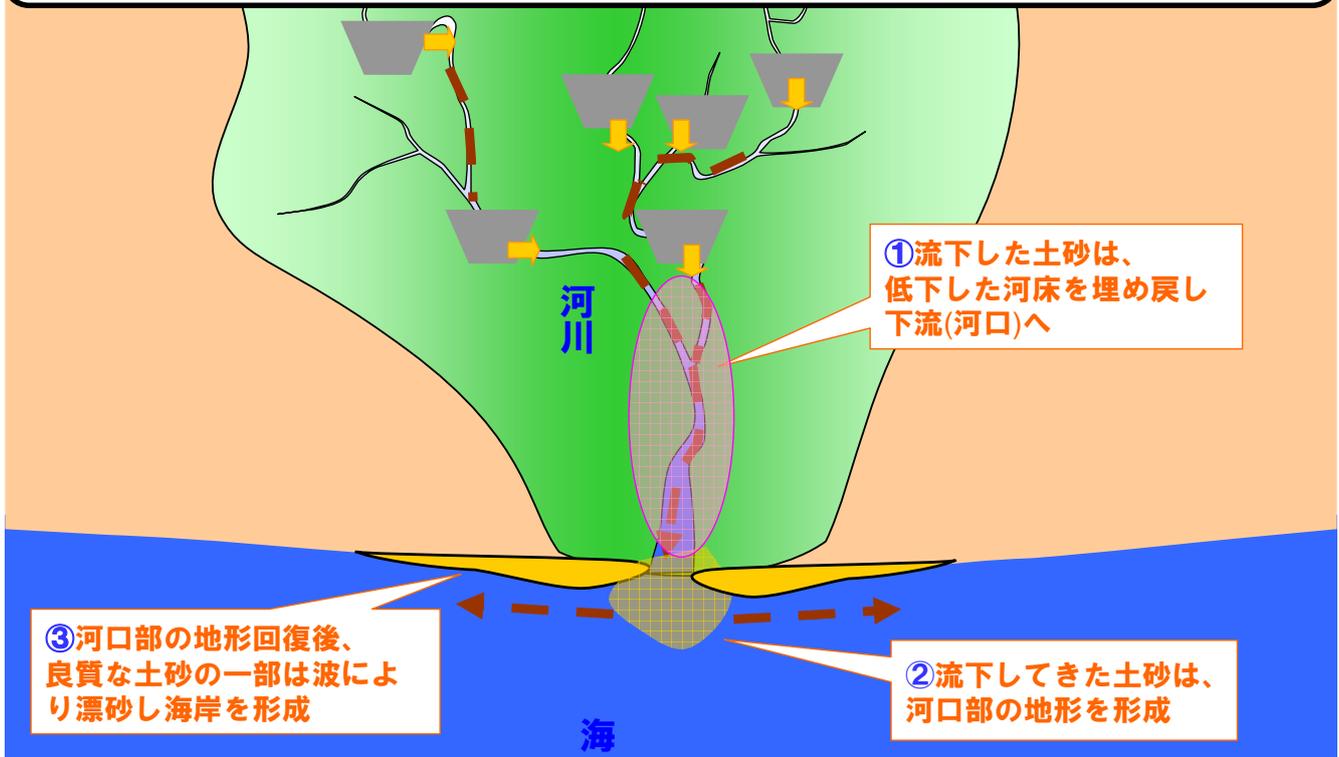


流砂系での対策の課題 ①



河川から自然流下する土砂はすぐには海岸へ到達しないため、現在進行している侵食への効果の発現に時間を要する。

※自然流下する土砂は、上流から①～③の経過を経て海岸に到達。



宮崎海岸における対策(中長期的な取り組みと緊急的な取り組み)

～第4回技術分科会資料より～

《中長期的な取り組み》

流砂系の観点からの取り組みを進め、侵食箇所に影響を及ぼすと考えられる山地、河川及び海岸部における土砂の流れを円滑化し、宮崎海岸に供給される土砂量を増やす。

《緊急的な取り組み》

※目安：5～10年程度までに実施すべき取り組み

流砂系の観点から河川、港湾等と連携した養浜など短期的に実施可能な取り組みを進め、宮崎海岸に供給される土砂量を増やすこと、または、漂砂の制御により宮崎海岸から流出する土砂量を減らすこととの組み合わせにより、宮崎海岸の海浜土砂量の回復・維持を目指す。

◆供給される土砂量を増やすこと

【一般的な対策工法】→養浜（サンドリサイクル、バイパス含む）

◆漂砂の制御により流出する土砂量を減らすこと

【一般的な対策工法】→突堤、離岸堤、人工リーフ など

技術検討のステップ

別添2

